

社会連携センター
CENTER FOR COMMUNITY RELATIONS

ANNUAL REPORT

2018



平成**31**年**3**月
国立大学法人 電気通信大学

Annual Report 2018 目次

ご挨拶	2
社会連携シンポジオン	4
社会連携関連カレンダー	7
1. 青少年の育成	
○ 調布少年少女発明クラブ／電通大子ども工作教室	10
○ ながれと遊ぼうコンテスト	13
○ 中学生職場体験受け入れ事業	15
○ おもちやの病院	16
○ 学生サークル地域貢献活動	17
2. 習得・知得	
○ 公開講座	21
○ サイエンスカフェ Chofu	24
○ 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座	30
○ 三鷹ネットワーク大学との連携	31
3. 協働活動	
○ 花植え活動	33
4. ボランティア活動支援	
○ 活動支援事業	36
○ ボランティア依頼リスト	38
5. トピックス	
○ 調布特別支援学校との連携	42
○ 渋谷区教育委員会との連携	44
○ 調布市・東京都教育関連セクターとの連携・協力	49

ご挨拶

社会連携センターは、平成 26 年度から社会連携企画室・地域学習推進室・青少年科学教育推進室・ボランティア推進室の 4 室体制を組んで、様々な社会連携活動を行っています。

社会連携企画室（水戸室長）では、本学の持つ ICT 技術を活用して地域の安心・安全向上に貢献しています。平成 21 年から都立特別支援学校との連携を深め、数多くの啓発活動や ICT 教材作成支援を行って参りました。平成 30 年 11 月には、調布市との連携のもとに社会連携シンポジオン「みんなが楽しむ、繋がる東京オリンピック・パラリンピックを目指して」を開催しました。ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック関連の貢献を進めて参ります。また、地域社会への窓口として、社会連携活動についての様々なご提案をお待ちしています。

地域学習推進室（宮寄室長兼任）では、公開講座や三鷹ネットワーク大学、そしていなぎ IC カレッジなどの生涯学習への協力を推進しています。平成 27 年度からは調布市生涯学習推進課による「中学生の大学体験入学」にも協力して参りました。また、平成 29 年度から、調布市や目黒会との共催で「サイエンスカフェ chofu」を開催し始めて、平成 31 年 3 月には第 9 回目を迎えました。近隣の大学・研究機関の方々にも幅広く話題をご提供いただき、気楽に科学に親しむ場をご用意できればと思います。

青少年科学教育推進室（奥野室長）では、発明クラブや工作教室をはじめとして、調布市や渋谷区の初中等教育への支援やおもちゃの病院などの活動を続けています。平成 27 年度に設立 10 周年を迎えた発明クラブですが、大学が実施する唯一の発明クラブとして、注目を集めております。また、目黒会からの支援を受けて、渋谷区こども科学センター・ハチラボとの連携を深め、「ハチラボフェスタ」への参加も再開いたしました。平成 29 年度から始めました「小学生（夏休み）と小学校教員（冬休み）へのプログラミング教室」もご好評をいただいております。

ボランティア推進室（佐々木室長）では、学生ボランティア登録システムを用いてボランティア活動を支援し、その活性化を促しています。平成 27 年度以降、調布市社会福祉協議会の中学生学習支援事業への学生ボランティア協力を行っています。また、プログラム学習への支援要請が増加しており、近隣の高等学校へボランティア学生を派遣しています。学生グループ「草のおと」や「ボランティアルネッサンス」とも連携して、美化活動などのボランティアを進めて参ります。

もう少しで「平成」は終わりますが、頻発する自然災害や不安定な政治経済情勢など不確

定で予測の難しい時代が続くことでしょう。そのような中であっても、永く持続可能な社会の実現のために、本学社会連携センターは地域社会との連携を深めていければと思います。

平成31年3月

社会連携センター長

機械知能システム学専攻 教授 宮 寄 武

社会連携シンポジオン 2018

みんなが楽しむ、繋がる東京オリンピック・パラリンピックを目指して

地域貢献は、地域からもたらされるニーズを受け止め、あるいはどこにニーズがあるかを探るところから始まるものであり、社会連携センターはコーディネータとして間接的に、あるいは可能であれば直接的に、地域社会と協働していくため、社会連携センターは、隔年に地域貢献に関するフォーラム（シンポジオン）を実施しています。



(1) 日 程 平成30年11月17日（土）13:30～16:00

(2) 場 所 電気通信大学創立80周年記念会館及び体育館

(3) 参 加 者 一般市民の方 39名

(4) 概 要 第1部では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、東京スタジアム、および武蔵野の森総合スポーツプラザで開催される競技の関係者や選手、自治体関係者の方々よりオリ・パラに向けた取り組みと課題についての講演がありました。

第2部では、体育館において、オリンピック・パラリンピック競技を体験できました。

の体験会を行いました。そして、オリ・パラを盛り上げるために市民、学生として、何をしたいか、何ができるかを参加者全員で考える。

(5) スケジュール

第1部 講演（13:30～14:25）

(1) 東京オリ・パラ 2020 への調布市の取り組み

調布市生活文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック担当部長 小林達哉氏

(2) オリ・パラ競技団体の紹介と取り組み

①近代五種について

公益社団法人日本近代五種協会強化委員長 立野宏幸氏

②障害者スポーツについて

日本体育大学体育学部教授 田中信行氏

③パラアスリートによる「スポーツと私」

日本体育大学大学院 堀江 航氏（プロ車椅子バスケットボール選手、

平昌パラリンピック・パラアイスホッケー日本代表）



小林部長の講義



立野委員長の講義



田中教授の講義



堀江様のお話

第2部 オリ・パラ競技体験会（体育館）

- (1) 車いすバスケットボール体験
 - (2) 近代五種競技（射撃：レーザーガン）体験
 - (3) 陸上競技用車いす体験
 - (4) アーチェリーロボット実物展示
 - (5) 電通大でのオリ・パラ競技に関する研究紹介
- 質疑応答・意見交換（15:35～15:55）



車いすバスケットボールの体験試合



陸上競技用車いすの体験試乗の説明風景



近代五種競技（射撃：レーザーガン）体験



アーチェリーロボット実物展示



意見交換・質疑応答

2018年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
4月	7 土 ●調布少年少女発明クラブ「開講式」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第1回)	
	14 土		
	21 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「プロペラ飛行機の制作」		●おもちゃの病院
5月	12 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その1」		
	19 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「万華鏡の制作」		●おもちゃの病院
	23 水	●地域産業振興講座	
	26 土	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第2回) ●理系の古文書講座上級編(第1回)	
6月	2 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その2」	●第6回 女性のための起業講座	
	8 木		
	13 水	●地域産業振興講座	
	14 木		
	16 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ヘロンの噴水の制作」		●おもちゃの病院
	20 水	●地域産業振興講座	
	21 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(1) ●日本語ボランティア入門講座(第1回)	
	28 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(2) ●日本語ボランティア入門講座(第2回)	
	30 土	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第3回) ●理系の古文書講座上級編(第2回)	
7月	4 水	●地域産業振興講座	
	5 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方(3) ●日本語ボランティア入門講座(第3回)	
	7 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その3」	●地域産業振興講座	
	12 木	●日本語ボランティア入門講座(第4回)	
	15 土		●おもちゃの病院
	19 木	●日本語ボランティア入門講座(第5回)	
	21 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ペットボトルロケットの制作」	●夏休み子どもプログラミング・ワークショップ～micro:bitで遊ぼう～	
	28 土	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第4回) ●理系の古文書講座上級編(第3回) ●日本語ボランティア入門講座(第6回)	
8月	1 火		
	2 木	●子供と学ぶ科学実験講座 ～がん細胞を光らせて見つけ出そう!がん研究を体験してみる～ ●日本語ボランティア入門講座(第7回)	
	8 水	●子供と学ぶ科学実験講座 ～がん細胞を光らせて見つけ出そう!がん研究を体験してみる～ ●子供に教える方のためのプログラミング講座	
	10 金	●日本語ボランティア入門講座(第8回)	
	16 木		
	17 土		●おもちゃの病院
	23 木	●日本語ボランティア養成講座(第9回)	
	25 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その4」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第5回) ●理系の古文書講座上級編(第4回)	
	29 水	●地域産業振興講座	
	30 木	●日本語ボランティア入門講座(第10回)	
9月	6 木	●日本語ボランティア入門講座(第11回)	
	13 木	●日本語ボランティア入門講座(第12回)	
	15 土 ●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(1)」		●おもちゃの病院
	26 水	●地域産業振興講座	
	29 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ゲルマニウムラジオの制作」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第6回)	

2018年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月	日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
10月	6 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(2)」		
	10 水		●地域産業振興講座	
	12 金		●日本語ボランティア勉強会指導(第1回)	
	13 土		●第21回 調布身の丈起業講座	
	20 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「ヘリコプターの制作」		●おもちゃの病院
	26 金		●日本語ボランティア勉強会指導(第2回)	
	27 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第7回) ●理系の古文書講座(第1回)	
11月	2 金		●日本語ボランティア勉強会指導(第3回)	
	3 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(3)」		
	10 土			
	14 水		●地域産業振興講座	
	16 金		●日本語ボランティア勉強会指導(第4回)	
	17 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第8回)	●おもちゃの病院
	24 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「紙飛行機の制作～流れと遊ぼうコンテスト」	●理系の古文書講座(第2回)	
12月	30 金		●日本語ボランティア勉強会指導(第5回)	
	1 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(4)」		
	8 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(5)」		
	12 水		●地域産業振興講座	
	15 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール(6)」	●ハイデガー『存在と時間』を読む(第9回) ●理系の古文書講座(第3回)	●おもちゃの病院
	26 水		●子供に教える方のためのプログラミング教室	
	27 木		●子供に教える方のためのプログラミング教室	
1月	12 土	●調布少年少女発明クラブ 「光オルゴール発表会」		
	16 水		●地域産業振興講座	
	26 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第10回) ●理系の古文書講座(第4回)	●おもちゃの病院
	31 木		●日本語教授法フォローアップ講座(第1回)	
2月	2 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「静電気と遊ぼう」		
	7 木		●日本語教授法フォローアップ講座(第2回)	
	9 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第11回)	
	13 水		●地域産業振興講座	
	14 木		●日本語教授法フォローアップ講座(第3回)	
	16 土		●理系の古文書講座(第5回)	●おもちゃの病院
	21 木		●日本語教授法フォローアップ講座(第4回)	
	28 木		●日本語教授法フォローアップ講座(第5回)	
3月	2 土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室 「エア・クッション・ビークルの制作」		
	9 土		●ハイデガー『存在と時間』を読む(第12回)	
	13 水		●地域産業振興講座	
	16 土			●おもちゃの病院
	23 土	●調布少年少女発明クラブ「修了式」		
	27 水		●脳科学ライフサポート研究センタースプリングスクール	
	28 木			

● 青少年の育成

1. 調布市少年少女発明クラブ

/電通大子ども工作教室

2. ながれと遊ぼうコンテスト

3. 中学生職場体験受け入れ事業

4. おもちやの病院

5. 学生サークル地域貢献活動

調布少年少女発明クラブ（電通大こども発明クラブ）

および

電通大子ども工作教室

「調布少年少女発明クラブ」は、公益社団法人 発明協会が事業として設置する少年少女発明クラブとして、一般社団法人 目黒会（本学同窓会）とともに本学が実施しています。その前身は、電通大創立 80 周年記念事業のひとつとして平成 13 年 11 月にはじまった電通大子ども工作教室です。そして発明クラブは平成 16 年 10 月に開設し、毎年定員の 10 倍近くの応募をいただきながら、電通大 100 周年を迎えました。

平成 30 年度の発明クラブも、全 21 回 本科の小学生 44 名が活動しました (<http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/club/index.html>)。UEC ミュージアムの見学も 1 回含んでいます。そのうちの 9 回では、各月の工作教室として応募してくれる 20 名が加わっています。4 月 21 日プロペラ飛行機の回には JCOM さまに取材をしていただきました。工作教室に申し込んでくださる方々の利便を考え、申し込みをこれまでの電話から、Web およびその後の抽選に変更しました。本科のこどもたちに加えて 2 年目以上の特別研究生としては、各自の希望したコースで 40 名が活動しました。発明工夫コースでは、第 20 回全国ジュニア発明展で入選したり（10261 点中 193 点）、第 9 回全国少年少女チャレンジ創造コンテストで 4 年連続で全国大会に出場したり（次項上）、第 62 回東京都児童生徒発明工夫展で実物審査会に複数選ばれたり（約 200 件の応募のうち 89 作品）しました。

今年度も近隣の PTA などから依頼され 11 回、出前工作教室を開きました。次項下には調布市西部公民館で 8 月に開いた教室の募集のたよりを示しています。10 月には渋谷区のハチラボ科学フェスタにも出展しました。本学と渋谷区教育委員会との連携事業のひとつです。前回のハチラボ出展は 2013 年でしたので 5 年ぶりになります。引き続き近隣の小学生年代からの科学振興に貢献していきます。

表 1 平成 30 年度の活動回数と人数

	年間活動回数	人数	
発明クラブ	21 回	44 人	1 年目
および工作教室	うち 9 回	追加で 20 人	毎回募集
特研マイコン 1A ライントレーサ	20 回	9 人	2 年目
特研マイコン 2A 上級	20 回	10 人	3 年目以上
発明工夫	25 回	10 人	2,3 年目
鉄道模型	19 回	11 人	2 年目以上

今年もチャレコン全国大会に参加

開会式
模様

発明協会主催の「第9回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト」の全国大会が12月1日に東京工業大学の屋内運動場で開催されました。

この大会には全国約500チームの中から選ばれた、60チームが参加しています。

調布からは女子小学児童で結成された、「映画創作協会KKSチーム」が作品名「幸せの宅配便、お月見」という山車で参加しました。

この山車は映画の街調布を宣伝することを目的に製作されました。1分間のプレゼンテーションの中で3つのカラクリを成功させ、完走を果たしました。おしくも、決勝にお進めませんでしたが、半年間の成果を十分に発揮することができました。

見事
ゴール



全員で
記念写真



(1)

2018年(平成30年)7月1日 No.415

西部公民館だより 7月号

調布市西部公民館 〒182-0035 調布市上石原 3-21-6
TEL 042-484-2531 FAX 042-484-3704

子ども体験教室

身近な材料で作ろう

夏休みの自由研究に！

エアーロケットと虹の万華鏡



最後は記念会をするよ
工夫して遠くに飛ばそう！

空気の流れで紙製ロケットはどのくらい飛ぶだろう？

虹の万華鏡で蛍光灯の光を見るとどんなふうに見えるかな？

電気通信大学調布少年少女発明クラブの指導員さんたちに、
工作と科学の不思議を教えてください。

8月9日(木)午後1時～3時30分

- 内 容 ・エアーロケット(空気圧で飛ばすロケット)
・虹の万華鏡(光を観察する万華鏡)
※1人2種類作ります
- 対 象 小学生(1～2年生は保護者同伴、見学可)
- 定 員 申込み順 20人
- 費 用 200円(材料費、当日持参)
- 講 師 電気通信大学 調布少年少女発明クラブ指導員
- 申込み 7月6日(金)午前11時から
電話または直接公民館へ



2018年度 発明クラブ/工作教室 活動報告(第14期)

44名 工作教室はプラス20名を毎回募集

当期 回数	通算 回数	日付	形態	内容
1	299	2018/4/7 土	発明クラブ	発明クラブ開講式
2	300	2018/4/21 土	工作教室/発明クラブ合同	プロペラ飛行機を作って飛ばそう
3	301	2018/5/12 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その1
4	302	2018/5/19 土	工作教室/発明クラブ合同	立体型回転万華鏡を作ろう
5	303	2018/6/2 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その2
6	304	2018/6/16 土	工作教室/発明クラブ合同	ヘロンの噴水
7	305	2018/7/7 土	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう その3 および 走行競技会
8	306	2018/7/21 土	工作教室/発明クラブ合同	ペットボトルロケットを作って飛ばそう
9	307	2018/8/25 土	発明クラブ	ステアリングカー その4 自走車に改造 および ふくろのねずみゲーム
10	308	2018/9/15 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その1
11	309	2018/9/29 土	工作教室/発明クラブ合同	電池いらずのラジオ作り 高感度ループアンテナで受信する
12	310	2018/10/6 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その2
13	311	2018/10/20 土	工作教室/発明クラブ合同	ヘリコプターの製作
14	312	2018/11/3 土祝	発明クラブ	光オルゴールの製作 その3
15	313	2018/11/24 土	日本流体力学会/工作教室/ 発明クラブ合同	ながれと遊ぶコンテスト
16	314	2018/12/1 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その4
17	315	2018/12/15 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 その5 UECミュージアムの見学
18	316	2019/1/12 土	発明クラブ	光オルゴールの製作 演奏発表会
19	317	2019/2/2 土	工作教室/発明クラブ合同	静電気と遊ぶ
20	318	2019/3/2 土	工作教室/発明クラブ合同	エアクション艇を作る
21	319	2019/3/23 土	発明クラブ	修了式

extra	2018/7/15 日	出前講座 電通大ホームカミングデー	10-16時 エアーロケット、ストローヘリ など 30名
extra	2019/7/26 木	出前講座 調布市 東部公民館	1330-1500 18名 電池いらずのラジオ作り、 ゲルマニウムラジオ
extra	2018/8/5 日	出前講座 江東区豊洲文化センター	1300-1500 20名 簡単モーターを作ろう
extra	2018/8/9 木	出前講座 調布市 西部公民館	1300-1530 20名 エアーロケットと虹の万華鏡
extra	2018/8/18 土	電通大での講座 調布市勤労者互助会	1300-1630 40名 簡単モータと万華鏡
extra	2018/10/27 土	出前講座 ハチラボ科学フェスタ 渋谷区こども科学センター	10:00-15:00 20名 ストローヘリを作って、とばそう
extra	2018/11/4 日	出前講座 こども電気実験教室1 多摩地区生涯学習インストラクターの会 80周年記念会館3階	1300-1630、20名、手回し発電機とモータ作り 小学生3年生以上
extra	2018/11/23金24 土25日	電通大調布祭出前工作教室	エアーロケット、ストローヘリ、雨上がり、特研生リモコンカー説明展示、など。 工作体験こども258名、保護者とあわせ計500名
extra	2018/12/22 土	出前講座 調布市教育委員会 社会教育課 遊ing 文化会館 たづくり12階大会議場	14:00-15:50 ストローヘリ、虹の万華鏡 10名 および 付き添いボランティア 9名
extra	2019/2/20 水	出前講座 調布市富士見児童館	15:15-16:45 ストローヘリ 20名
extra	2019/3/3 日	出前講座 こども電気実験教室1 多摩地区生涯学習インストラクターの会 80周年記念会館3階	1300-1630 20名 手作りスピーカーで音を楽しむ 小学生3年生以上、

ながれと遊ぼうコンテスト 2018

宮崎 武*

平成 30 年 11 月 24 日（土）に「ながれと遊ぼうコンテスト 2018」を電気通信大学で開催いたしました。紙飛行機を工作して飛行性能を競う「紙飛行機大会」に加えて、飛行機が何故飛べるのかをデモ実験を通してわかりやすく解説するという恒例の啓発行事です。日本流体力学会が主催し、社団法人発明協会が共催する行事ですが、今年度は日本流体力学会 50 周年と電気通信大学創立 100 周年が重なりましたので、少し趣向に工夫を凝らしました。日本流体力学会側の担当組織は電気通信大学、京都大学、東京電機大学、そして帝京大学航空宇宙工学科の米田洋先生にもお手伝いいただきました。例年、機体設計をお願いしている澤田拓名人（武蔵野ペーパープレークラブ）に加えて、人力飛行機製作チーム「アルタイル」のメンバーにも紙飛行機を提案してもらいました。参加者は、発明クラブで年間を通して活動をしている子供が 39 名、当日参加の工作教室の子供が 22 名、合計 61 名の小学生（男子 43 名、女子 18 名）でした。

午前 10 時に電気通信大学創立 80 周年記念会館の三階フォーラムに集まった参加者には、2 種類（色付けを考えると 4 種類）の「紙飛行機キット」から選択してもらいました。バルサを切り出した木製胴体、主翼などを印刷したケント紙、そして紙飛行機を飛ばすために使う発射装置のセットです。「澤田名人機」は基本設計を変えず、主翼などの色付けを華やかにいたしました。「アルタイル機」は新設計の主翼の長い機体ですが、親しみやすい色付けで、工作しやすさを重視しています（図 1）。

選んでもらった機体に応じて、二つのグループに分けて、澤田名人とアルタイルのメンバーから工作



図 1 アルタイル機（上）と澤田名人機（下）

手順を教わりつつ、子供たちはケント紙から翼を切りだし、接着剤で胴体のバルサに固定していきます。澤田名人機の場合には上反角やキャンバーの付け方などの細かい作業もありましたが、学生ボランティアにも手伝ってもらいながら、作業を順調に進めていました。しっかりと工作された機体が多く、コンテストが楽しみです（図 1）。

紙飛行機が組み上がった後、接着剤が乾くまでの時間を利用して、高木正平先生（電気通信大学客員教授）が「飛行機はなぜ飛べるの？」というお話をして下さいました。今年はデモ実験にも工夫を加えていただき、目には見えない空気の流れが「翼」に大きな揚力をもたらすことをわかりやすく演示されました（図 2）。例年よりも参加者数が多かったので、学生ボランティアがデモ実験をカメラで撮影して、その映像をスクリーンに映しました。後方の参加者にも見やすくなったと思いますが、もう少しじっくりと時間をかけて、子供達が実験に参加でき

* 電気通信大学 知能機械工学専攻，〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1



図2 揚力発生を実演する高木先生

るようにしたほうがもっと盛り上がったかもしれません。

昼食後に電気通信大学の体育館で滞空時間コンテストを行いました。天井が高く、背景風もなく、コンテストには格好の場所です。ゴムによる発射装置を使って飛行機をできるだけ高く飛ばし、体育館床到達までの時間の長さを競います。コンテストに先立ち、澤田名人と米田先生から紙飛行機の発射方法と機体調整法の説明がありました（図3）。米田先生はNHKの「超絶凄ワザ！」に出演されたこともある飛行制御の達人で、ご自身の設計された紙飛行機で、真っ直ぐ体育館を飛びきる直線飛行と17秒超の旋回飛行を見せてくださいました（図4）。「機体調整」で自由自在に紙飛行機を飛ばせることに子どもたちは目を見張っていました。

今年の滞空時間のチャンピオンは小黒瑛太郎君で、記録は16.8秒でした。昨年の記録（11.6秒）を大きく上回る結果で、「澤田名人機」の熟成度が確認されました。一方、新参入の「アルタイル機」の最長滞空時間は8秒でした。主翼と胴体の接合強度が足りず、コンテスト中に壊れる機体が多く、修理に時間を取られたためかもしれません。来年度に向けて機体の改良が期待されます。

コンテスト終了後の閉会式では、滞空時間上位3名の成績優秀者の表彰と賞品の贈呈が行われ、また、参加者全員に修了証が手渡されました。

「ながれと遊ぼうコンテスト」は20年近くにわ



図3 滞空時間コンテストの様子



図4 米田先生の凄ワザ！

たって開催されていますが、女子の参加者も多く、その中には電気通信大学に進学してくれる子供も現れました。小規模な啓発行事ではありますが、継続することで子供たちに流体力学や物作りに魅力を感じてもらえれば幸いです。

末筆になりますが、機体製作をサポートして頂いた目黒会と新しい機体を設計してコンテストを盛り上げてくれたアルタイルのメンバーに感謝いたします。

中学生職場体験受入事業

「中学生職場体験」は、進路指導と総合的な学習の一環として、地域にあるさまざまな事業所や施設などを活用して、勤労体験を通して労働の意義や職業に対する意識、理解を深め、将来の進路についての関心を高めさせること、社会の一員としての常識、マナーを身に付けさせることを目的として実施されているものである。

職場体験事業の受入れについては、地域貢献事業の一つとして位置づけ、平成17年度から地域・産学官連携推進機構地域貢献部門が担当し、平成21年度からは社会連携センターが窓口となって実施している。

平成30年度は、次のとおり受入れを行った。

6月25日～	6月29日	府中市立府中第九中学校	2年生3名
9月 5日～	9月 7日	府中市立府中第二中学校	3年生3名
11月13日【職場見学】		東京都立三鷹中等教育学校	1年生3名
11月14日～	11月16日	東京都立三鷹中等教育学校	2年生3名

受入れは、例年どおり総務課、財務課、研究推進課、学術情報課、大学生協で行った。

また、東京都立三鷹中等教育学校の1年生の職場見学では、水戸研究室で受け入れ、この仕事のやりがいなど職業に関する質問などに答える形式で行われた。

業務は、職員の指導の下、帳簿のチェック、資料の整理、パンフレット発送作業、本棚の整理整頓、図書のラベル貼り、商品のチェックなどの作業を体験した。生徒達は、真面目に熱心に取り組んでいた。

職場体験終了後には、職場体験のまとめや感想が書かれた礼状を生徒全員からいただいた。

○仕事の大切さや挨拶の大切さを学ぶことができました。

○大学とは多くの人に支えられて成り立っているということをどの職場でも感じました。

○大学の先生の日や仕事のやりがいを知り、どれだけ社会に貢献するために努力が必要なのかを学びました。

○印象的だったのは、どの課においても利用する方々がより快適に利用できるような数多くの工夫がなされていて、さらに便利にしようとする姿勢でした。

というような感想がありました。

おもちゃの病院 平成30年度活動報告

1. 事業の概要

おもちゃの病院は、前田隆正氏（元本学監事）をはじめとする本学の卒業生が中心となって、平成15年7月から開催しています。単に壊れたおもちゃを修理するのではなく、「子供と一緒におもちゃの動く仕組みを調べ、そのおもちゃと一緒に直す」ことを方針に、毎月、第3土曜日の午後に創立80周年記念会館2階で実施しています。本年度は前田院長から中澤院長への交代、大学の創立100周年記念に呼応した活動、修理ドクターの拡充に取り組み更なる発展を目指しました。

2. 活動状況

平成30年度は、毎月の定例開催として12回の開院を行い、その他に入院したおもちゃを集中して直す修理専用の日を2日間ほど実施しました。昨今のおもちゃは高度な電子回路による制御で動作する物も多く、回路図が無いおもちゃの病院では、年々故障原因の解析に要する時間が多くなる傾向にあります。その為、開院前の午前中に早出をして修理をする日もありました。

過去の取り扱いの中で、使用する乾電池の消耗劣化により動作不能となり、病院に持ち込まれるケースが多々ある事が、平成29年度から開始した修理記録データベースの集計で分かりました。そこで、大学の創立100周年記念に呼応して、来院されたお客様には「バッテリーチェッカー」を配布して、ご家庭で活用していただくよう啓蒙活動を実施しております。

同時に乾電池の交換のみで動作復旧したおもちゃは「故障では無い」という考え方を採用して、故障を修理した案件としてはカウントせずに、修理回復率の向上に努めるよう運用ルールを変更して、より高度な故障原因解析が出来るよう取り組んでおります。

平成29年度に開始した、修理記録を残すデータベースは、各修理ドクターの持っている修理技術の共有化・平準化と修理時間の短縮、修理不能と判定されたおもちゃを如何にして修理可能にするかを検討する資料を収集する事を目的に、引き続き充実を図って行きます。

本年度はベテランの修理ドクターが退会され、目黒会を通して修理ドクターを募集しておりますが、持ち込まれるおもちゃの数も増加気味で、まだ修理ドクターが不足しており、特別に集中修理の日を設けないと消化しきれない状況があります。

なお、おもちゃの病院と併設して開催している「こども・ふしぎおもちゃ手作りミュージアム」は、おもちゃの病院に来た子ども達などが、ちょっと不思議なおもちゃに触れ、楽しんでいます。

病院の開催回数	12回（月1回、7月はホームカミングデーの日に開催）
集中修理の日	2回

開院日の来院者数	225人
受付おもちゃの数	304個
（内 訳）当日修理で復旧	143個
修理不能と判断	45個
入院預かり	116個

なお、入院預かりのおもちゃはその後の修理活動により3月26日現在の入院数は22個。修理回復率は82%でした。

平成 30 年度学生サークル地域貢献活動実施報告書

1. サークル名

Passage(ぱさーじゅ)

2. 担当者

電気通信大学ジャグリングサークル Passage 部員 7 名

西川 真帆 (代表)	情報理工学域Ⅱ類 3 年
中澤 優伸	大学院情報理工学研究科情報学専攻 2 年
小野口 貴仁	情報理工学部知能機械工学科 4 年
橋本 理公	情報理工学域Ⅱ類 3 年
杉野 恵祐	情報理工学域Ⅲ類 3 年
荒谷 康介 (部長)	情報理工学域Ⅰ類 2 年
中島 健輔	情報理工学域Ⅰ類 1 年

3. 活動テーマ

富士見児童館ジャグリングサークル

4. 実施日時

平成 30 年 10 月 3 日、10 日、17 日、24 日

平成 30 年 11 月 7 日、14 日、28 日

平成 30 年 12 月 5 日、12 日

平成 31 年 1 月 9 日、16 日、23 日、26 日(9:30~11:00)、30 日

平成 31 年 2 月 6 日、13 日

各 16:00~17:00 全 16 回

5. 実施場所

調布市立富士見児童館

6. 活動テーマの概要

平成 31 年 2 月 17 日(土)12:45~調布市グリーンホール大ホールにて行われる児童館交流事業「調布市児童館交歓フェア」に出演する小学生に、ジャグリングを教える。

参考：

児童館交歓フェアについての Web サイト(平成 29 年のもの。平成 31 年の Web サイトはありませんでした。)

<http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1484531581019/index.html>

7. 実施報告

(1) 参加者

富士見児童館の小学生 2年生から6年生まで21人

(2) 実施内容

4種類のジャグリング道具（ボール、ディアボロ、ポイ、フラワースティック）でのパフォーマンスの指導

- ジャグリングの体験
- ジャグリングの技の練習の指導
- 交歓フェアでのジャグリングパフォーマンスの練習の指導

(3) 活動について

10年ほど前から毎年おこなっている活動のため、滞りなく実施することができた。各回は次のように行った。

- 初回：ジャグリングの体験。40人の児童が参加。
- 2回目以降：初回に参加した児童の中から21人が正式なサークルメンバーとして決定した。4種類のジャグリング道具ごとにグループをつくり、その道具の技を習得し、交歓フェアでの発表に向けて練習を行った。
- 14～16回目：交歓フェアでの発表と全く同じ流れの練習を行うようになり、完成度の高いパフォーマンスができるようになった。

複数回参加している児童と初めて参加する児童で技能に差があり、また、小学2年生から6年生までおり体格に差がある中で、ジャグリングを教えることは難しかった。しかしそこで、個人の能力に合わせた指導や発表内容を考えることで、参加者全員が楽しめる活動を行うことができた。

約半年という長い期間この活動を実施することにより、小学生に Passage のメンバーや電気通信大学のことを覚えてもらえているようだ。そのため、富士見児童館の小学生とその保護者が15人ほど、調布祭での Passage のジャグリングパフォーマンスを見に来てくれた。このように、地域貢献活動によって私たちにも嬉しいことがあると、活動をしてよかったなと感じる。今後もこの「富士見児童館ジャグリングサークル」を続けていく予定だ。

以下の写真は、活動のようすである。



【フラワースティックの練習の様子】



【ボールの練習の様子】



【ディアボロの練習の様子】



【ポイの練習の様子】



【練習風景】

● 習得・知得

1. 公開講座
2. サイエンスカフェ Chofu
3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座
4. 三鷹ネットワーク大学

公開講座等

1. 概要

平成21年4月1日に社会連携センターが設置されたことに伴って、教育担当部署で担っていた公開講座の実施を、本センターが所掌することになった。

また、平成21年度には、翌年度に電気通信学部の改組が予定されていることから、それまで公開講座の専門講座は学科持ち回りで開講していたものを改組に合わせて今後の実施方法等を見直しすべく、社会連携センター運営委員会の下に公開講座検討専門委員会を設置して検討し、新たな方式での講座の開講を平成22年度からスタートさせた。

平成26年5月21日に、センターのこれまでの活動に加えて、本学の特色であるICT技術を活用しての地域貢献活動も見込まれることから、センターの活動を整理し、活動内容毎に担当を明確化し、より集中的、戦略的な活動の展開を図るために、センター内に4つの「室」を設置することとし、その中の「地域学習推進室」が公開講座の検討及び実施を担当することとなった。

2. 平成30年度開講状況

平成30年度は、次の講座を開講した。

<本学主催講座>

(1) ハイデガー『存在と時間』を読む（第2回）

講 師：共通教育部 准教授 中橋 誠

開催日：第1回 4月 7日（土）参加者：25名

第2回 5月26日（土）参加者：21名

第3回 6月30日（土）参加者：16名

第4回 7月28日（土）台風のため休講

第5回 8月25日（土）参加者：16名

第6回 9月29日（土）参加者：16名

第7回 10月27日（土）参加者：16名

第8回 11月17日（土）参加者：17名

第9回 12月15日（土）参加者：18名

第10回 1月28日（土）

第11回 2月 9日（土）

第12回 3月 9日（土）

開催時間：各日15：30～17：00

(2) 理系の古文書講座 上級編

講 師：情報理工学研究科共通教育部 准教授 佐藤賢一

開講日：第1回 5月26日（土）参加者：11名

第2回 6月30日(土) 参加者：11名

第3回 7月28日(土) 参加者：10名

第4回 8月25日(土) 参加者：10名

第5回 2月17日(土) 参加者：16名

開催時間：各日13:00～16:00

(3) 第6回女性のための起業講座

講師：社会連携センター客員教授 前田隆正

有) そーはっと代表取締役 森下ことみ

おでん屋「えがお」代表 石原 郁子

開講日：6月 3日(日) 13:00～16:30 参加者：2名

(4) 「ジャグリング入門」 一頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方ー

講師：情報理工学研究科情報・通信工学専攻 助教 西野順二

開講日：6月21日(木)、28日(木)、7月5日(木)

19:00～20:30 参加者：9名

(5) 夏休み 子どもプログラミング・ワークショップ

講師：教育研究技師部 学術技師 笹倉理子

開催日：7月21日(土)

10:30～11:30 参加者：12名(小学3～6年生)

13:00～15:00 参加者：9名(小学5～6年生)

(6) 子どもと学ぶ科学実験講座

がん細胞を光らせ見つけ出そう ー癌研究を体験してみるー

講師：情報理工学研究科先進理工学専攻 准教授 牧 昌次郎

情報理工学研究科先進理工学専攻 助教 仲村 厚志

開催日：8月 2日(木) 13:00～16:30 参加者：22名

8月22日(水) 13:00～16:30 参加者：20名

(7) 子どもに教える方のためのプログラミング教室

講師：共通教育部 特任助教 赤澤 紀子

教育研究技師部 学術技師 笹倉 理子

開催日：8月10日(金) 9:30～15:00 参加者：22名

12月26日(水) 9:30～15:00 参加者：9名

12月27日(木) 9:30～15:00 参加者：7名

(8) 調布身の丈起業講座

講 師：社会連携センター客員教授 前田隆正

開催日：第21回 10月13日（土） 13：00～16：30 参加者：5名

(9) 理系の古文書講座

講 師：情報理工学研究科共通教育部 准教授 佐藤賢一

開講日：第1回 10月27日（土） 参加者： 名

第2回 11月24日（土） 参加者： 名

第3回 12月25日（土） 参加者： 名

第4回 1月26日（土） 参加者： 名

第5回 2月16日（土） 参加者： 名

開催時間：各日 13：00～16：00

(10) 脳科学ライフサポート研究センター スプリングスクール

実験テーマ1 脳の画像初A Iを作ってみよう

実験テーマ2 モーションキャプチャの動きを見てみよう

講 師：情報理工学研究科情報学専攻 教授 庄野 逸

情報理工学研究科機械知能システム学専攻 教授 岡田 英孝

開講日 実験テーマ1 3月27日（水） 参加者： 名

3月28日（木） 参加者： 名

実験テーマ2 3月27日（水） 参加者： 名

3月28日（木） 参加者： 名

開催時間：各日 13：00～17：30

<(財)調布市文化・コミュニティ振興財団主催・ちょうふ市内・近隣大学等公開講座>

○総合テーマ「コンピュータの原理と進化」

第1回「コンピュータを支えるデジタル回路」

講 師：情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻 教授 成見 哲

開講日：10月 5日（金） 19：00～20：40

参加者：37名

第2回「最先端で身近な人工知能の技術」

講 師：情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻 助教 西野 順二

開講日：10月19日（金） 19：00～20：40

参加者：63名

2018 サイエンスカフェChofu

コーヒーを飲みながら科学について語り合う！サイエンスカフェ Chofu

2017年度から、電気通信大学と調布市の主催、電気通信大学同窓会「目黒会」共催によるサイエンスカフェChofuが開催されました。

このイベントは、科学に関する知識を深めるだけでなく、自由な発想で互いのアイデアについて語り合う場であり、講師との距離が近く、科学を身近に感じることができます。

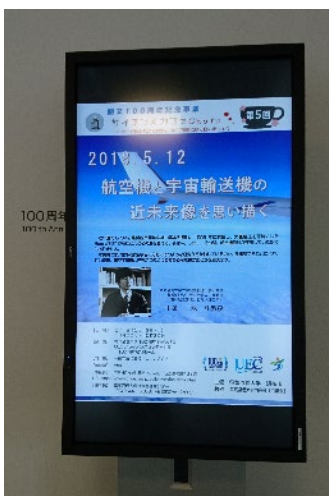
サイエンスカフェChofu 第5回

航空機と宇宙輸送機の近未来を思い描く

- (1) 日 程 平成30年5月12日(土) 14:00～15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参 加 者 一般市民の方 22名
- (4) 講 師 情報理工学研究科智能機械システム学専攻 千葉 一永 准教授
- (5) テー マ 航空機と宇宙輸送機の近未来を思い描く
- (6) 概 要

第5回となる今回は、本学の千葉一永准教授を講師としてお招きし、「航空機と宇宙輸送機の近未来を思い描く」をテーマに、世界の航空宇宙の分野でどのような研究が行われているのか、航空機の歴史から未来までお話しいただきました。

高校生から大人の方まで幅広い年齢層の方が参加され、アットホームな雰囲気での多くの質問や意見交換がされました。



ようこそサイエンスカフェへ



千葉先生の講義



カフェタイム



多くの質問や意見がありました

サイエンスカフェChofu 第6回

重力波検出が拓く科学

- (1) 日 程 平成30年7月14日(土) 14:00~15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参 加 者 一般市民の方 28名
- (4) 講 師 レーザー新世代研究センター 武者 満 准教授
- (5) テ ー マ 重力波検出が拓く科学

(6) 概 要

第6回となる今回は、本学の武者満准教授を講師としてお招きし、「重力波検出が拓く科学」をテーマに、重力波の発生原理からその初検出に結びついた検出器の開発、そして今後の進展についてお話しいたしました。

高校生から大人の方まで幅広い年齢層の方が参加され、アットホームな雰囲気での多くの

質問や意見交換がされました。



ようこそサイエンスカフェへ



武者先生の講義



随時、質問がありました。



カフェタイム

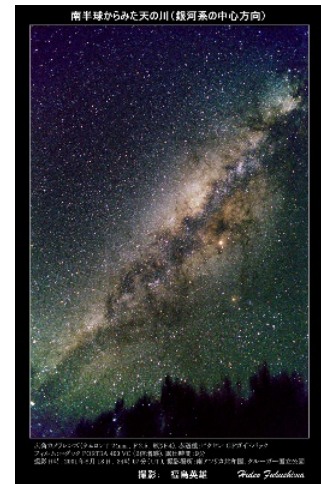
サイエンスカフェChofu 第7回

星までの距離 ～夜空の星と あなたまで～

- (1) 日 程 平成30年9月7日(金) 18:00～19:30
- (2) 場 所 調布市文化会館たづくり1階
Cafe & Bar Pallas
- (3) 参 加 者 一般市民の方 21名
- (4) 講 師 国立天文台 JASMINE 検討室 矢野太平 助教
- (5) テー マ 星までの距離 ～夜空の星と あなたまで～
- (6) 概 要

第7回となる今回は、実際のカフェで国立天文台の矢野先生を講師としてお招きし、「星までの距離」をテーマに、古代エジプト時代から、現在に至るまで、いかにして星までの距離を求めてきたのかお話いただきました。更に現在宇宙から星までの距離測定をしている位置天文観測衛星についてお話していただき、宇宙の広がりを感じさせていただきました。

女性の参加も多く、幅広い年齢層の方が参加され、コーヒーを飲みながらアットホームな雰囲気での多くの質問や意見交換がされました。



ようこそサイエンスカフェへ

南半球からみた天の川



矢野先生の講義



たくさんの質問がありました。

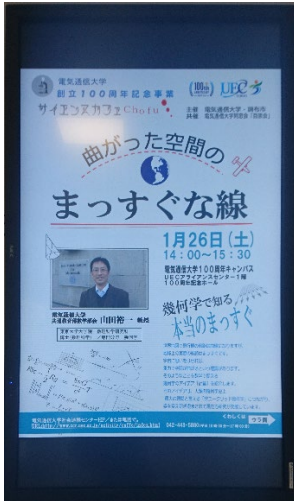
サイエンスカフェChofu 第8回

曲がった空間のまっすぐな線

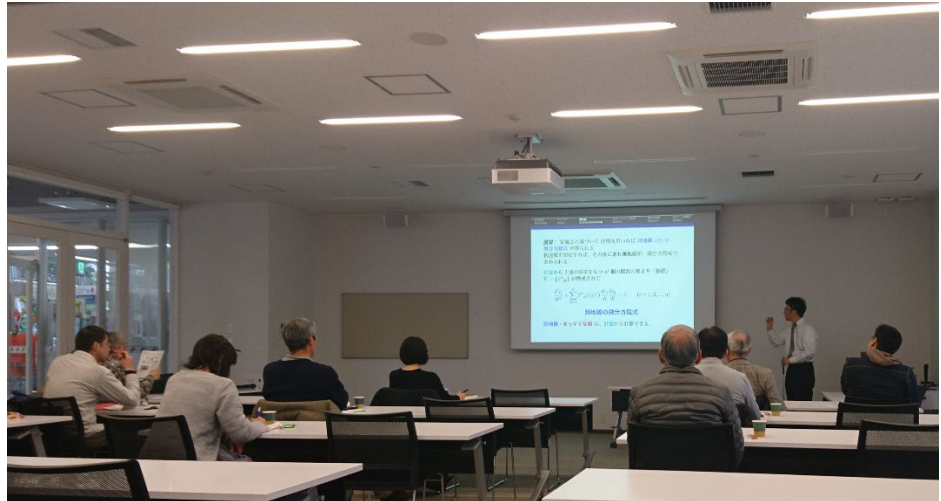
- (1) 日 程 平成31年1月26(土) 14:00~15:30
- (2) 場 所 電気通信大学100周年キャンパス UECアライアンスセンター1階
100周年記念ホール
- (3) 参 加 者 一般市民の方 12名
- (4) 講 師 電気通信大学共通教育部 山田裕一 教授
- (5) テ ー マ 曲がった空間のまっすぐな線
- (6) 概 要

第8回となる今回は、本学の山田裕一教授を講師としてお招きし、幾何学についてお話していただきました。世界地図で飛行機の航路は曲線になりますが、地球上の実際の航路はまっすぐです。宇宙に思いをはせれば、重力で空間が曲がるという理論があります。そのようなことを数学で捉える幾何学のアイデア「計量」についてお話していただきました。3平方の定理に始まり、ユークリッド幾何の疑問から、フィールズ賞を辞退した幾何学者、1箇所だけ未解決で残っているポアンカレ予想など、話が広がりました。

高校生から大人の方まで幅広い年齢層の方が参加され、コーヒーを飲みながらアットホームな雰囲気での多くの質問や意見交換がされました。



ようこそサイエンスカフェへ



山田先生の講義



たくさんの質問がありました。



カフェコーナー

1. 調布市国際交流協会日本語ボランティア入門講座指導

[講 師] 池田 裕 (国際教育センター教授)

笠原 (竹田) ゆう子 (国際教育センター教授)

[期 間] 2018 年 6 月～2018 年 9 月 毎週木曜日 14:00～16:00 (全 12 回)

[場 所] 総合研究棟 301 マルチメディアホール、総合研究棟 306 講義室
たづくり 12 階大会議室

[講座概要]

調布市国際交流協会日本語ボランティア希望者 38 名を対象に異文化理解、外国人とのコミュニケーションのためのワークショップを行った。また、日本語教育及び日本語教授法の基礎知識についての講義を行った。

2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア勉強会指導

[講 師] 池田 裕 (国際教育センター教授)

[期 間] 2018 年 10 月 12 日、26 日、11 月 2 日、16 日、30 日 (木) 14:00～16:00
(全 5 回)

[場 所] 東 2 号館 B117

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア 30 名を対象に、初級日本語の授業案作成、初級レベルの学習者を対象とする授業の実習を行った。

3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア日本語教授法フォローアップ講座指導

[講 師] 笠原 (竹田) ゆう子 (国際教育センター教授)

[期 間] 2019 年 1 月 31 日、2 月 7 日、14 日、21 日、28 日 (木) 14:00～16:00
(全 5 回)

[場 所] 東 2 号館 B117 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア 29 名を対象に、学習者分析、教材分析、教授法に関する講義・ワークショップを行った。

三鷹ネットワーク大学との連携

三鷹ネットワーク大学は、三鷹市民への高度な教育・学習機会の提供と、民学産公の協働による研究・開発の推進、教育・研究機関相互の連携及び地域社会への貢献に資することを目的に、各教育・研究機関と三鷹市が共にこの運営に当たっており、本学は、三鷹市と「三鷹ネットワーク大学に関する基本協定書」を平成17年3月18日に締結し、開設時より参加している。

それに基づき、公開講座、企画運営委員会及び「民学産公」協働研究事業の実施について協力している。

1. 平成30年度公開講座開講状況

平成30年度は、本学からは次の講座を開講した。

① 「三鷹身の丈起業塾」第27期

- ・講 師：客員教授 前田 隆正
- ・開催日：第1回 4月10日（火）、第15回 7月24日（火）

② 「三鷹身の丈起業塾」第30期

- ・講 師：客員教授 前田 隆正
- ・開催日：第1回 9月4日（火）、12月18日（火）

③ 「誰でもできる！ 起業入門」

- ・講 師：客員教授 前田 隆正
- ・開催日：2月9日（土）

2. 「民学産公」協働研究事業への協力

協働研究事業は、「民学産公」の連携による知的資源を活用した新しい技術やシステムの開発による地域に根ざした産業の支援・創出に寄与することを目的とし、当機構の正会員及び賛助会員が参加しています。

「民学産公」協働研究事業審査委員（宮寄センター長）の活動は、下記のとおりであった。

（1）プレゼンテーション審査・選考 平成30年7月6日（金）

応募団体から提出済みの予算計画書（最大50万円の補助、ただし同額を自己負担）も参考にして質疑応答を行い、いくつかの項目について委員からのポイントを集計して採択団体が決定された。

（2）中間報告会・交流会 平成30年11月2日（金）

（3）成果報告会・交流会 平成31年3月 1日（金）

● 協働活動

1. 花植え活動

花植え事業活動報告書

1. 事業の概要

本館前花壇の花植え事業は、「調布花・はなの会」の皆さんのボランティアによって、平成15年6月から行われてきましたが、平成29年11月14日の花の植え替え活動を最後に、「調布花・はなの会」が解散することとなりました。

その後、後継の方を探していましたが、フラワーアレンジメントの先生「atelier Kusamuraの半谷（ハンガイ）京子様」が、本館前花壇及びバラ園の花植え事業を引き継いでボランティアとして活動いただくこととなりました。学生サークル「草のおと」も先生のご指導のもと、活動を継続しています。

半谷先生には、今回、次のようなコンセプトに基づき、本館前花壇のアレンジをしていただきました。

本館前花壇に、新たに5種類のカラーボーダーガーデンをつくりました。なるべく手のかからない宿根草（毎年植え替えをしない。根や株が残り、大きくなってゆく植物）、多年草を多く使い、根や株を大切に大きく育て、その植物本来の立体的な姿の美しいボーダーをめざしました。

2. 活動状況

（1）4月17日（火）17：00～

半谷先生が本学の本館前花壇とバラ園を視察し、ボランティアとして協力いただけることとなった。

（2）本館前花壇の改修工事

次のとおり、本館前花壇の改修工事が行われることとなった。

① 木の根の侵入を防ぐためにコンクリート壁を設置する改修工事

② 5月28日（月）～6月12日（火）（予備期間：6／13～6／16）

（3）5月29日（火）16：00～

植える花の選択（その都度植え替えを行うのではなく、毎年咲く多年草を植える。）、日程など、今後の進め方について、打合せを行った。

（4）6月19日（火）10：00 花壇の花植え作業

目標としては、7月のオープンキャンパスに綺麗な花を見られるように。





(5) 7月3日 カラーボーダーガーデンお手入れボランティアの募集

美しいカラーボーダーガーデンには、やはり日々お世話がなんといっても一番大切！水やり、また、だめになった花柄をつまんでやのなど、ちょっとした気遣いが植物をりっぱに、また、長く楽しませてくれるものになります。

学内に足を踏み入れた途端に、なんと気持ちの良い植物たちのお出迎え！

草花から元気をもらいましょう。

植物という生き物に、向き合ってみませんか？

育てる楽しみバツグンです。

教職員・市民から3名のボランティアの応募がありました。

それぞれ都合の良い時間にお手入れをしていただいております。

(6) 11月21日(水) 13:00～15:30 花壇の花植え作業

参加者 8名



● ボランティア活動支援

1. 活動支援事業
2. ボランティア依頼リスト

ボランティア活動支援事業

1) ボランティア活動マッチングシステム

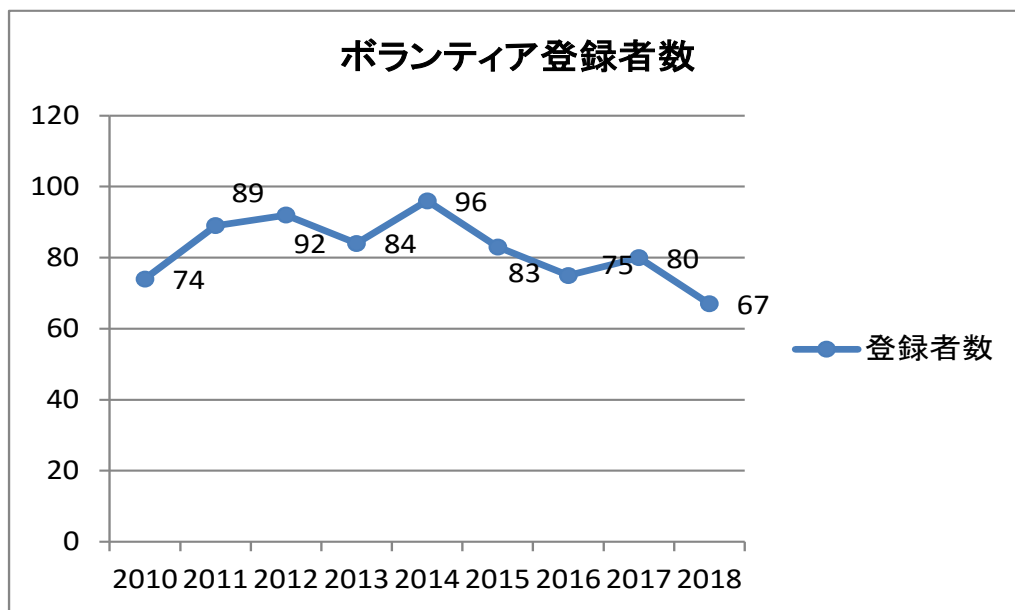
本学では、平成 18 年度より Web によるボランティア活動マッチングシステムを運用している。ボランティア活動を希望する学生がこのシステムに登録すると、本センターに届いたボランティア募集情報がメーリングリストを通して配信される。実際に活動を行う場合は、学生がボランティア募集元へ直接問い合わせ、申し込み等を行って活動をスタートする。活動終了後は、報告書を提出するよう勧めており、その報告書に基づいて毎年数名の大学表彰対象者を選定している。

また、教員養成課程を履修する学生を支援する教職課程支援室が年々充実し、教職課程に特化したボランティア活動マッチングシステムが数年前から立ち上げられている。現在は、両システムがお互いの長所を生かしつつ併存している。

2) 人数と件数

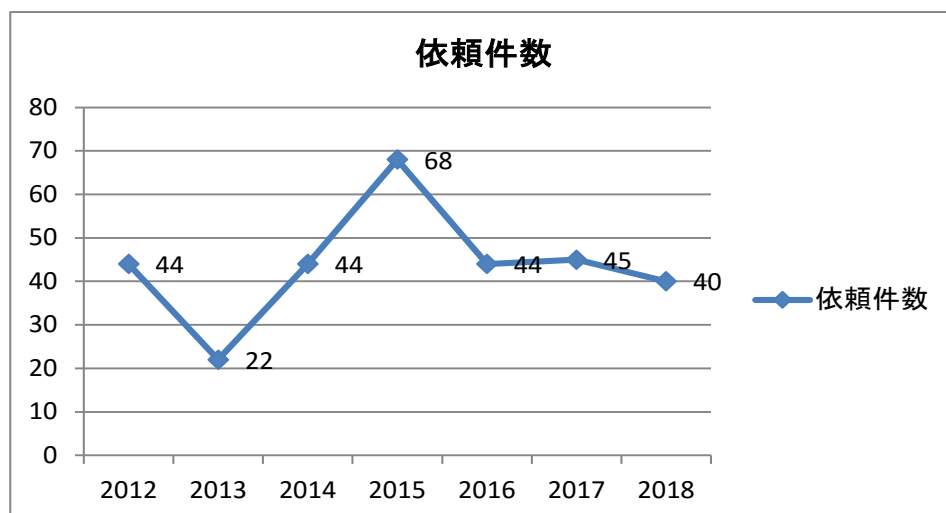
まず、本センターのボランティア活動マッチングシステムにどれだけの学生が登録しているかについて述べたい。近年は概ね 80～90 名前後の学生がボランティアへ参加登録していたが、今年度は東日本大震災をきっかけに登録していた学生が大学院を卒業した経緯もあり、67 名となっている（図 1）。

図 1 ボランティア登録者数



一方、ボランティア依頼件数は年度によって増減を繰り返している状況ではあるが、平均して年間に 40 件以上の依頼を受けている（図 2）。章末に、平成 28 年度のボランティア依頼内容をまとめている（表 1）。このうち、学生が実際に出向いた件数がいくつあるかは十分に把握できておらず、積年の課題となっている。

図 2 ボランティア依頼件数



3) 本年度のボランティア活動の全体動向

本年度も各組織からのチラシ送付を中心に、WEB からの申込み、直接資料の持参を合わせて 40 件のボランティア依頼を受けた。平成 30 年度の内訳をみると、全 40 件のうち分野別では学習支援関連が 6 件（15%）、地域別では大学所在地である調布市に拠点を持つ組織・団体からの依頼が 8 件（20.0%）となっている。依頼数 40 件には、活動期間の異なる同一震災復興プロジェクトが複数含まれているため、それを除くと実質的な学習支援ボランティアの割合は前年度と同水準となる。また、学習支援ボランティアの多くは大学所在地の調布市およびその近隣からの依頼によるもので、地域の大学に対する期待を感じる次第である。

また、これまでキャンパス内の美化活動を行っていたボランティアサークル「草のおと」に続き、多分野でのボランティア活動を目指すサークル「ボランティア・ルネサンス」が立ち上がった。各学生が学んでいること、得意なことを強みとして地域に貢献する活動が行われることを期待している。

この他に、前述の教職課程支援室を介して多くの学生が調布市内の小中学校にて学習支援活動を行っている。調布中学校、調布特別支援学校では定常的に学習支援ボランティアとして学生が参加している他、科学センターや布田小学校でも毎月活動を行っている。

ボランティア活動においても調布市との連携が強化され、年々地元での活動基盤が整いつつあることは、地域社会に対する貢献活動を志す本センターとしては非常に喜ばしい限りである。今後も学内、学外との連携を深めつつ、地域に根差した活動を続けていく所存である。

4) 来年度以降の登録制度改変について

今年度よりボランティア登録時に学生と面談を行い、活動予定、活動報告の提出を周知するよう運用を改めたが、センターへの活動報告はなく学生の活動状況を把握することが出来なかった。今後のボランティア業務に関する運用を再検討していく必要があると認識している。

表 1：平成 30 年度ボランティア活動依頼

区分 A:教育指導補助 B:野外活動等補助員 C:福祉活動 D:講座・集会 E:その他

No.	受付日	団体名	依頼内容	依頼 区分
1	2018/4/1	伊那谷こども村事務局	サマーキャンプボランティア大募集	B
2	2018/4/1	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 179 陣	C
3	2018/4/1	一般社団法人ボランティアプラットフォーム(ぼらぷら)	海外ボランティア募集	B
4	2018/4/1	NPO 法人文化学習協同ネットワーク	学習ボランティア募集	A
5	2018/4/1	調布市子ども家庭支援センター すこやか	子育て支援事業に関するボランティア募集	C
6	2018/4/6	立川いったい音楽まつり	立川いったい音楽まつりの開催当日ボランティア募集	D
7	2018/4/7	すみだストリートジャズフェスティバル実行委員会	第9回すみだストリートジャズフェスティバルボランティア募集	D
8	2018/4/19	調布市立第八中学校	学習支援ボランティア募集	A
9	2018/5/8	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 180 陣	C
10	2018/5/8	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 181 陣	C
11	2018/5/8	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 182 陣	C
12	2018/5/8	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、 GTF グレータートウキョウフェスティバル実行委員会	共生スポーツ祭り 大学生ボランティア募集	D
13	2018/5/8	公益財団法人トウキョウオリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	東京 2020 オリンピック・パラ競技大会 ボランティア募集	D
14	2018/5/8	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟	車いすバスケットボール競技運営サポートボランティア募集	D
15	2018/5/29	電気通信大学 水戸先生	都立調布特別支援学校の ICT 教材作成	A
16	2018/5/29	東京都多摩障害者スポーツセンター	スポーツボランティア講習会参加者募集	D
17	2018/6/1	二葉学園	養育家庭学習ボランティア募集	A
18	2018/6/1	公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会	ラグビーワールドカップ2019日本大会ボランティア募集	D
19	2018/6/1	Gakuvo Style Fund 事務局	第 5 回 Gakuvo Style Fund 応募団体募集	D
20	2018/6/14	東京ボランティア・市民活動センター	夏の体験ボランティアキャンペーン 2018	C

No.	受付日	団体名	依頼内容	依頼 区分
21	2018/6/28	社会福祉法人長淵福祉会	学習支援ボランティア	A
22	2018/6/28	一般財団法人学生サポートセンター	学生ボランティア団体助成事業応募者募集	D
23	2018/7/5	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 183 陣	C
24	2018/7/5	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 184 陣	C
25	2018/7/5	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 185 陣	C
26	2018/9/27	公益財団法人トウキョウオリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	東京 2020 オリンピック・パラ競技大会 ボランティア募集	D
27	2018/9/6	独立行政法人国際協力機構(JICA)	青年海外協力隊・シニア海外ボランティア募集	C
28	2018/9/27	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 186 陣	C
29	2018/10/11	社会福祉法人調布市社会福祉協議会ここあ	中学生学習支援ボランティア	A
30	2018/11/2	調布市国際交流協会(CIFA)	日本語で話そう会参加者募集	D
31	2018/11/2	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 187 陣	C
32	2018/11/2	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 188 陣	C
33	2018/11/2	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 189 陣	C
34	2018/11/2	復興庁	復興・創成インターン募集	C
35	2019/1/10	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 190 陣	C
36	2019/1/10	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 191 陣	C
37	2019/1/10	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 192 陣	C
38	2019/1/10	日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)	チーム「ながぐつ」プロジェクト第 193 陣	C
39	2019/1/10	調布市選挙管理委員会事務局	期日前投票立会人、投票所事務従事者募集	D
40	2019/1/10	調布市男女共同参画推進課	女性活躍推進事業「わがま調布の輝き女性」取材ならびに原稿作成協力学生募集	D

合 計

A（教育指導補助）： 6 件

B（野外活動等補助員）： 2 件

C（福祉活動）： 19 件

D（講座・集会）： 13 件

E（その他）： 0 件 計 40 件

● トピックス

1. 調布特別支援学校との連携
2. 渋谷区教育委員会との連携
3. 調布市多方面セクターとの連携、協力

都立調布特別支援学校との連携

情報理工学研究科・情報学専攻

准教授 水戸和幸

1. はじめに

本学に隣接する都立調布特別支援学校と本学は平成 21 年 10 月に教育連携協定を締結している。以降、公開講座、ICT 教材作成支援、余暇活動支援、地域と連携した防災訓練など、様々な教育連携活動を近隣教育機関および地域住民と協力して展開している。

2. 活動組織 ～調布特別支援学校リソース・ネット～

教育連携の内容について検討および運営を行う組織として「調布特別支援学校リソース・ネット」がある。メンバーは、当校の教職員と PTA 役員および卒業生保護者、地域住民や隣接する調布市立第一小学校学区の地域協議会（いっしょうふれあいネットワーク）、本学の社会連携センター運営委員である佐々木啓子教授（教職課程部会）、奥浩昭教授（総合文化部会）、水戸和幸（I 類／情報学専攻）および学生である。年 10 回の委員会を開催し、特別支援学校および特別支援教育に関する啓発活動（公開講座）、防災活動、余暇活動支援を中心とした課題への対応と事業を実施している。

3. ICT 教材作成支援

調布特別支援学校の教員と本学の学生が協力して作成する ICT 教材作成であり、平成 23 年度から継続して実施されている。当校の教員が授業で使用したい ICT 教材のアイデアとイメージを提供し、本学学生が技術力を駆使して実現化する協同作業である。本年度は、情報学専攻および教職課程の学生の協力により、11 件の教材を作成した。作成された ICT 教材は、同校の校内ネットワークに保管され、学校全体で活用できるようになっている。



ICT 教材発表会の様子（左）、教材の一例・お金の学習（右）

4. 余暇活動支援

当校の児童・生徒の余暇活動の充実を図るために学習やスポーツ・文化活動等の体験活動を実施している。本活動は、東京都の「東京都立特別支援学校放課後子供教室推進事業」の助成を受けており、運営企画等は調布特別支援学校リソース・ネットが行っている。各イベントにおいて、本学の学生サークル、地域のボランティア団体の協力を得ており、当校の児童・生徒と本学の学生および地域の方々が交流できる場ともなっている。各イベントの内容は次の通りである。

活動内容	日時・場所	内容
はい！チーズ写真教室	6月9日（土） 13:30～15:00 調布特別支援学校 体育館	チェキ（インスタントカメラ）を使って、自由な視点と発想で写真を撮り、発表する。
世界から、こんにちは （国際交流）	7月14日（土） 13:30～15:00 調布特別支援学校 体育館	本学留学生による母国の紹介と遊びや踊りを通じて国の文化を知る。 協力：電気通信大学実践的コミュニケーション教育推進室、電気通信大学 ICES
ダンス&ジャグリング	9月27日（土） 13:30～15:00 調布特別支援学校 体育館	子ども達とボランティアが一緒になってジャグリング鑑賞、体操、ダンス、ゲームなどを楽しむ。 協力：電気通信大学ジャグリングサークル・Passage



「世界から、こんにちは」：留学生による母国の説明（左）、参加者との記念撮影（右）

渋谷区教育委員会「こども科学センター ハチラボ」との連携事業について

1. 夏休みワークショップへの企画

【企画名 紙ひこうきの製作 講座】

- (1) 日 程 平成30年8月11日(土) 10:00～15:00
- (2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ、アリーナ
- (3) 参 加 者 小学校高学年生 10名
- (4) 講 師 情報理工学研究科機械知能システム学専攻 宮寄武 教授
武蔵野ペーパープレインクラブ会長 澤田拓 名人
社会連携センター 高木正平 客員教授
情報理工学部・情報理工学研究科 学生5名
- (5) 活動テーマ 紙飛行機の作製とデモ実験を通して、飛行機が飛ぶ原理とメカニズムを理解する。
- (6) 概 要
以下のように、午前と午後の2部に分けて活動した。
10時～11時30分：紙飛行機作製（ハチラボ） 澤田名人指導（写真1）
11時30分～12時：講演「飛行機はなぜ飛ぶか」 高木客員教授（写真2）
12時～13時：昼食
13時～14時30分：滞空時間コンテスト（アリーナ） 最長滞空時間 8.59 秒（写真3）
14時30分～14時45分：質疑応答と閉会式



写真1：紙飛行機作製



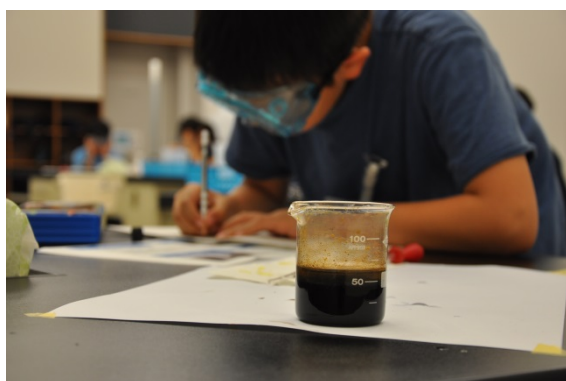
写真2：飛行機はなぜ飛ぶか（デモ実験）



写真 3：滞空時間コンテスト

【企画名 磁石で動く謎の液体 講座】

- (1) 日 程 平成30年8月19日(日) 14:00～16:00
- (2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ
- (3) 参 加 者 13人(小学4年生8人、小学5年生3人、小学6年生2人)
- (4) 講 師 電気通信大学共通教育部自然科学部会 小林義男 教授
中村 仁 准教授
- (5) 活動テーマ 通常は高温下での酸化によって生成される黒錆の微粒子を、化学反応によって作製する。さらに界面活性剤と混合し磁性流体の作製を行う。この流体の不思議な特性について体験する。
- (6) 概 要
以下のスケジュールで実施した。
- 13時 準備・打合せ
- 13時30分～14時 パワーポイントを用いた講義
- 14時～16時 磁性流体の作製・観察
- 一人一人、自分のビーカーを用意して実験を行なった。正確に量りとした試薬を混合し、滴下と攪拌を丁寧に行った結果、全員がきれいなスパイク現象を観察することができた。古くはNASAが開発した磁性流体も最近では子供向けのキットで購入できる時代であるが、鉄イオンを含んだ溶液から黒錆の微粒子を作製し、さらに磁性流体の性質を持たせる経験は、途中の反応過程を丁寧に観察しながら作業を行うなど、ものづくりに重要な経験を積むことが出来た。



2. ハチラボ科学クラブへの企画

【企画名 発光の科学】

(1) 日 程 前期 平成30年9月 8日(土) 14:00～16:00

後期 平成31年1月12日(土) 14:00～16:00

(2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ

(3) 参 加 者 前期 9名(定員12名、5年7、6年5、男子9名)

後期 10名(定員12名、5年6、6年4、男子7名、女子3名)

(4) 講 師 情報理工学研究科基礎理工学専攻 牧 昌次郎 准教授

情報理工学部・情報理工学研究科 学生7名

(5) 活動テーマ

酵素で発光するホタルの原理を試験管で再現して、生体機能を人間が人工的に創ることができるかどうか確かめてみる。

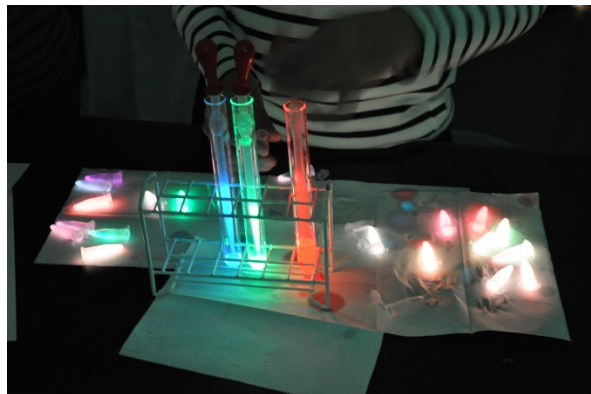
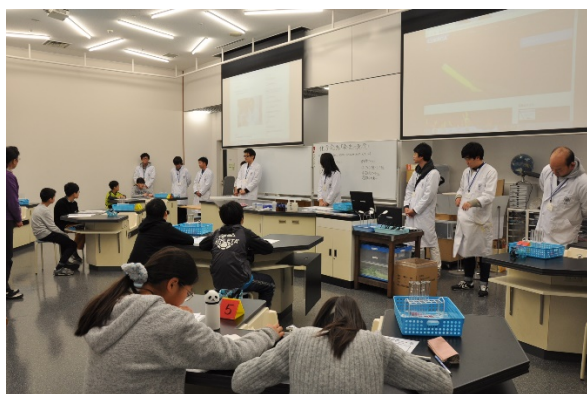
(6) 概 要

発光の実験として、化学発光の実験を行った。発光液を混合することで化学反応による発光を実体験した。

当研究室の研究員と大学院生が各班に1名付き、危険な試薬や複雑な手順を丁寧に指導することで、高度な実験も安全かつ正確に遂行できた。質問にもその場で対応し、他の理科実験教室とはレベル・内容・指導の質で差別化できた。



ハチラボ科学クラブ講座 前期 2018.9.8



ハチラボ科学クラブ講座 後期 2019.1.12

3. ハチラボ科学フェスタ

【ストローヘリを作って、飛ばそう】

(1) 日 程 平成30年10月27日(土) 10:00～15:00

(2) 場 所 渋谷区こども科学センター ハチラボ

(3) 参 加 者 36名(幼児2名、児童18名、保護者16名)

(4) 講 師 地域連携活動推進員(調布少年少女発明クラブ指導員)
内海基裕、小園健一、中野 喬、福井正史、西田和弘

(5) 概 要 ペットボトルから切り出した2枚のローター(羽根)をゴムの力で飛ばしてみよう。どのくらい高く飛ばせるか、実験します。(50～60分 ★なし)

実施回数 4回

実施時間 10:05～、11:05～、13:05～、14:05～

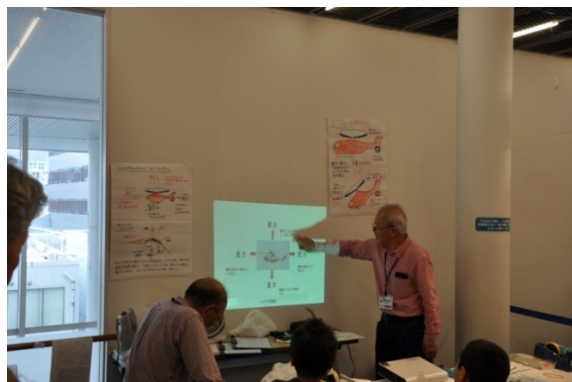
初めに15分程ヘリコプターの飛行原理を模型などを使って説明。その後工作に入り、20分ほどで完成。構造は簡単だが低学年には結構難しかった。残りの時間で飛ばしっこ。皆よく飛んだ。会場の天井が低かったのがちょっと残念。飛ぶものが他になく人気は一番で各回満席でした。



模型を使ってヘリコプターの原理を説明



熱心に説明を聞く子供たち



プロジェクターを使って飛行原理の説明



指導員の手助けで一生懸命工作

調布市・東京都 教育関連セクターとの連携

共通教育部 教授 佐々木啓子

1. 調布市科学センター講座：電通大生ボランティア

調布市科学センターが開講する科学講座のなかの電気工作Ⅱ「ロボットを作ろう」は本学の教職課程支援室と機械知能システム工学専攻の研究室が中心となって運営する科学講座である。調布市内の小学生高学年生を対象として、1年間に14回開催される科学講座の中で、毎年12月の講座は、機械知能システム工学専攻の大学院生の協力のもとで、本学教職課程部会が担当して実施している。本学からは学生約15名をボランティアとして派遣している。この取り組みは平成23年度より始め、今年度で8回目を迎えた。



大学院生によるロボット製作の説明



個別にテーブルでサポートする

制作したのは「床ふきロボットワイパー君」で、8年前に機械知能システム工学専攻の大学院生グループが、本講座のために制作したオリジナルである。ハンダごてを使う子どもたちを学生たちがサポートする。今年度は「ワイパー君8号」となった。参加した小学生全員が床拭きロボットを完成させて持ち帰ることを目標として制作にとりかかった。

各テーブル三人の児童に一人以上の支援学生がつくよう、今年度は15名の学生ボランティアを派遣したので、一人一人の子どもに対して十分な支援ができていた。本学の講座「ロボットを作ろう」は児童の一番人気の講座である。事後の児童たちの感想からは、難しかったが学生たちが丁寧にサポートしていたことが伺われた。学生とともにロボットを作成することは、児童たちにとって良い教育効果があると高く評価されている。当日は、科学講座の開始時に講座申し込みをした調布市内の児童45名が参加し、学生たちが準備した電子工作の部品や工具を使って、全員がロボットを完成させることができた。実際にロボットがどのような仕組みになっているかを理解して自分の手で作ってみる体験は貴重である。手順は、知能機械工学専攻の大学院生が作成した床ふきロボットの作成マニュアルを見ながら、基板へのハンダ付けを学生ボランティアの補助のもとで全児童が挑戦した。ハンダづけは初めてという児童がほとんどだが、完成後、児童らは自らの手で実際にロボットを動かし歓声を上げていた。



床拭きロボット「ワイパー君 8 号」



参加したボランティアの学生たち

2. 東京都立高等学校との連携

(1) 東京都立町田高等学校

高大連携の一貫として、東京都立町田高等学校にて平成28年度より東京都立町田高等学校にて町田高等学校「理数教育支援員」として支援活動を行っている。この取り組みは、本学主催の高大連携企画「高大連携 基礎プログラミング(試行)」に参加している生徒に対し、同校にて学習サポートをするものである。生徒に対するきめ細かいサポートを丁寧に行い、情報分野プログラミング教育の普及に貢献した。単に指導にとどまらず、教材の吟味や選定、同校担当者との連絡調整など、講座の成功に大きく寄与した。また、直接のサポートにおいても、的確なアドバイスをして同校の情報教育推進に大きく貢献した。生徒からは好評を得ており、同校の情報教育推進に大きく貢献した。

(2) 東京都立調布特別支援学校「見守りボランティア」

調布本学の協定校である、東京都立調布特別支援学校にて行われている「見守りボランティア」に、教職の学生が、ほぼ毎週参加し、昼休み中に校庭や体育館で児童らが安全に遊べるように見守る活動を行った。時には見守るのみならず、児童とともにボール投げなどの遊びの相手をする 것도活動に含まれている。長期間こうした見守りボランティアを続けることによって、児童との信頼関係ができて児童にとって良い効果が得られた。

3. 調布市の諸団体と連携して活動

(1) 遊ing

調布市教育委員会社会教育課が募集する市内の特別支援学級の児童・生徒を対象とする土曜日の行事「遊ing」は月1回、年間10回開催される。土曜日の午後に子どもの料理教室や映画鑑賞会、水遊び、工作など、危険がないように見守りながら一緒に楽しむ企画である。社会連携センターのボランティア情報に掲載されているが、教職課程支援室のメーリングリストでも情報を配信して参加を呼びかけている。

(2) 調布市立中学校の学習支援ボランティア

さらには教職履修の学生を中心として、調布市教育委員会（教育会館窓口）が募集する中学校、高等学校の学習補助ボランティアには個々に応募して参加している。調布第七中学校や調布中学校の補習授業に、学習支援ボランティアとして教職の学生たちが多数、参加した。学習支援の他にも課外活動での支援も行っている。

4. その他の活動

(1) 近隣の中学校での教育支援

教職履修の学生が、出身母校である中学校などで学習支援ボランティアを行うという事例が散見される。今年度は、学生の母校である町田市立鶴川中学校で、1年次より4年間、放課後の補習授業のボランティアを行った学生がいた。他には調布市内の中学校が募集しているボランティアに参加する学生もいるようである。